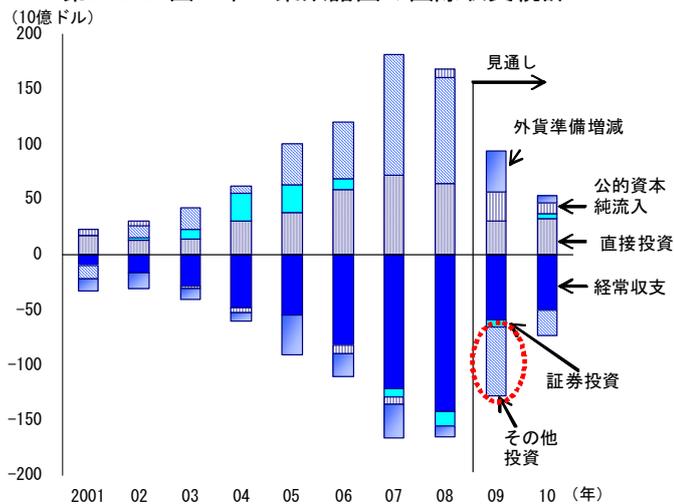


第2-2-24図 中・東欧諸国の国際収支統計



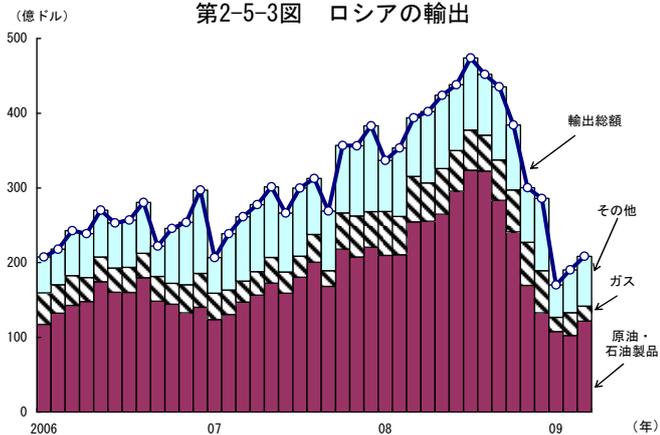
(備考) 1. IMFより作成。
2. 経常収支+民間資本純流入(直接投資+証券投資+その他投資)+公的資本純流入+外貨準備増減+誤差脱漏=0

第2-2-37表 中南米諸国の輸出(名目GDP比及びシェア)

	輸出の名目GDP比	輸出に占めるシェア (%)		
		アメリカ向け	中国向け	一次産品
ブラジル	15.9	14.0	8.3	36.9
メキシコ	32.9	80.2	0.7	20.7
アルゼンチン	23.3	7.1	8.3	34.7
チリ	48.0	11.9	13.9	63.3

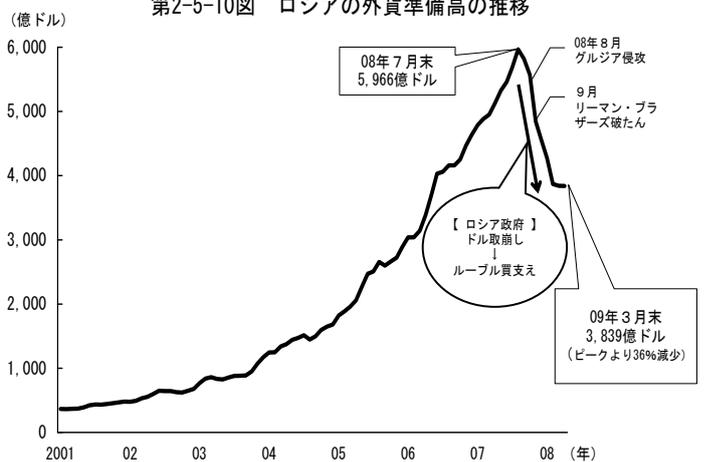
(備考) データストリーム、各国統計より作成。

第2-5-3図 ロシアの輸出



(備考) ロシア税関より作成。

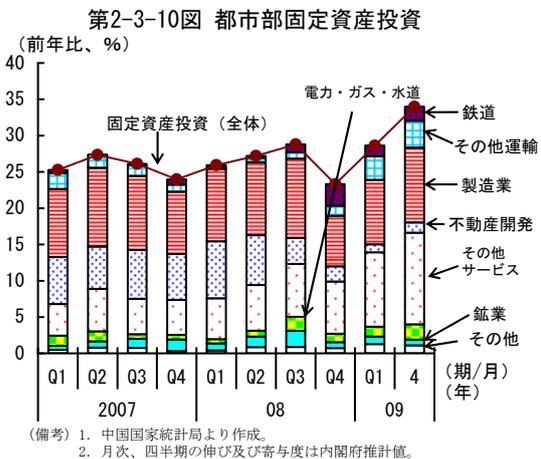
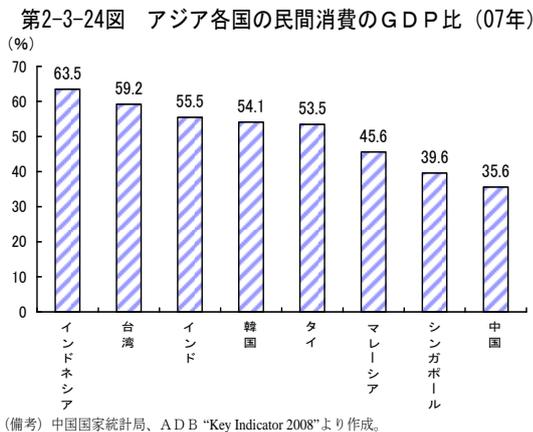
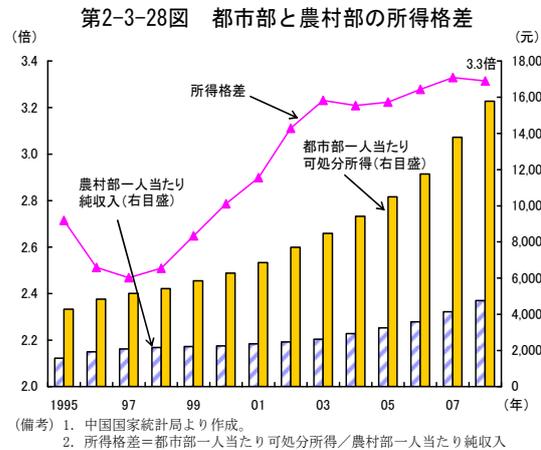
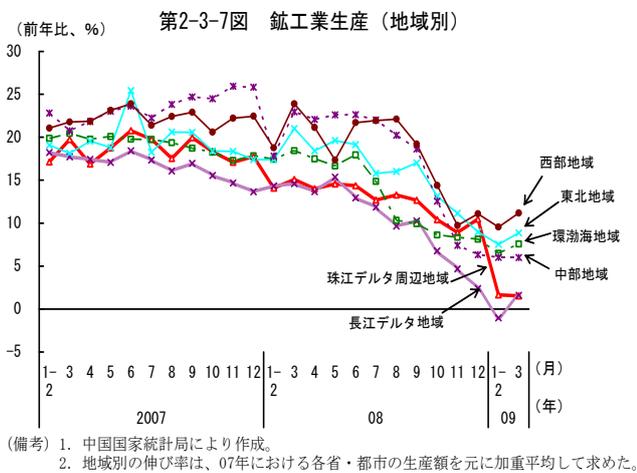
第2-5-10図 ロシアの外貨準備高の推移



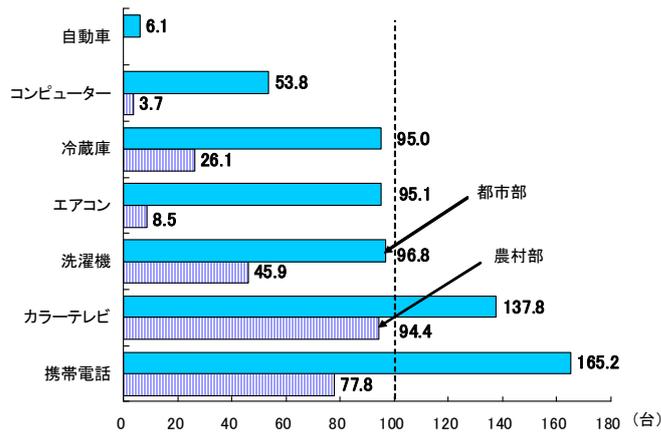
(備考) ロシア中央銀行、各種資料より作成。

2. 世界的な景気後退と中国

- 中国経済は、世界金融危機の影響により、景気は一段と減速したが、足元では、景気刺激策の効果により、持ち直しの動き。輸出部門の生産は落ち込んでいるものの（第2-3-7図）、4兆元の内需拡大策の効果により、固定投資の伸びが加速するなど、内需は堅調に推移（第2-3-10図）。
- 中国が危機の影響を大きく受けた一因は、輸出・投資依存型の経済構造にある。中国のGDPに占める消費の割合は、他のアジア諸国と比べても低く（第2-3-24図）、安定的な成長のためには、消費主導の成長への転換が必要。
- 消費拡大のためには、以下の2つが必要。
 - (1) 拡大を続けている都市部と農村部の格差（第2-3-28図）の是正が必要。農村部における耐久消費財の潜在的な需要は大きく（第2-3-31図）、所得が高まれば、嗜好品の消費も拡大する可能性（第2-3-30図）。
 - (2) 中国では、家計貯蓄率が更に上昇（第2-3-34図）。過剰貯蓄の背景には、社会保障制度が未整備であり（第2-3-37図、第2-3-38図）、医療費が高いことなどが挙げられ、消費拡大のためには、社会保障制度の整備が必要。

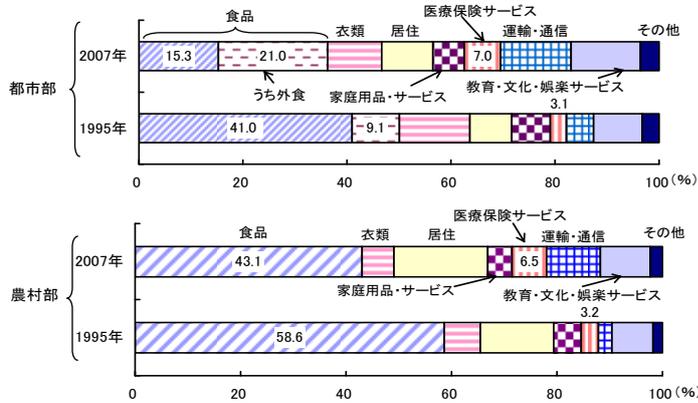


第2-3-31図 中国：耐久消費財の普及状況（07年）
（100世帯あたりの保有台数）



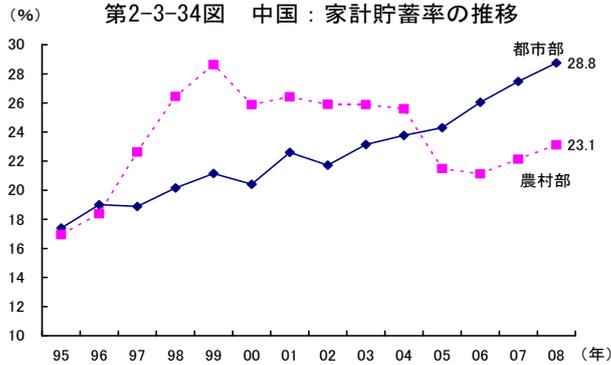
(備考) 中国国家统计局より作成。

第2-3-30図 中国：消費支出の内訳（都市部及び農村部）



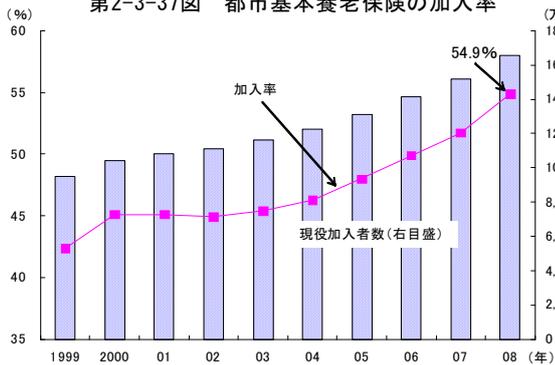
(備考) 中国国家统计局より作成。

第2-3-34図 中国：家計貯蓄率の推移



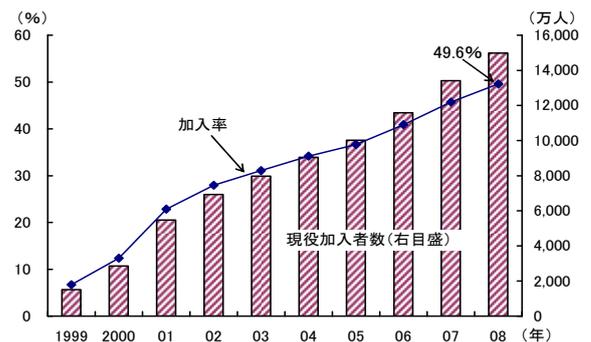
(備考) 1. 中国国家统计局より作成。
2. 家計調査ベース。家計貯蓄率 = (一人当たり年間可処分所得 - 一人当たり年間消費支出) / 一人当たり年間可処分所得

第2-3-37図 都市基本養老保険の加入率



(備考) 中国国家统计局より作成。

第2-3-38図 都市従業員基本医療保険の加入率

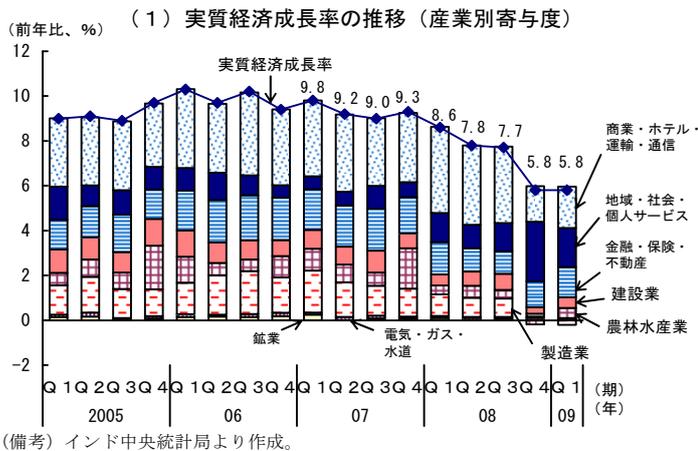


(備考) 中国国家统计局より作成。

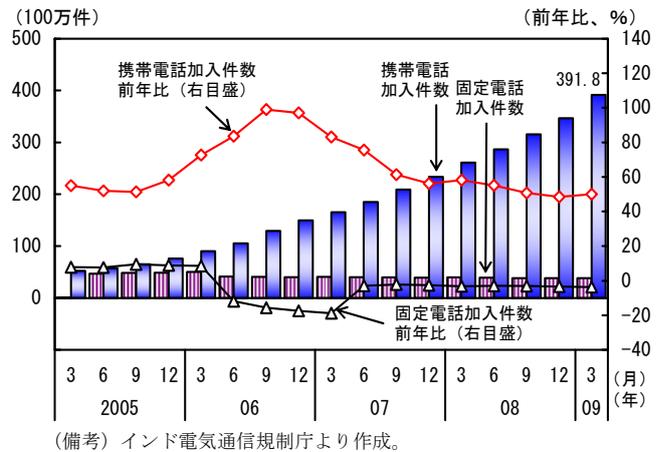
3. 世界金融危機とインド

- インド経済は、金融引締め強化に世界金融危機の影響が加わって、一段と減速。しかしながら、個人消費を中心とした内需に支えられ、相対的に高めの成長率を維持（第2-4-1図、第2-4-25図）。
- 輸出の名目GDP比が低いことから、世界金融危機の貿易を通じた影響は相対的に小さい（第2-4-17図）。また、近年、貿易に占める中国のシェアが上昇しており、内需の強い中国とインドの間で需要を補完する動き（第2-4-16表）。
- インド経済は、今後も持続的な成長が期待され、経済規模を購買力平価で評価した場合、2013年には日本を追い抜く見込み（第2-4-32図）。
- インドでは、労働力人口が安定的に拡大することが見込まれる上（第2-4-33図）、資本の面でも、貯蓄率の上昇に伴って投資率が急速に上昇していることから（第2-4-35図）、中長期的な潜在成長力は高まっている。
- 他方、中長期的に持続的な成長を続けていくためには、（1）格差の是正、（2）雇用機会の創出、（3）インフラの整備等の課題（第2-4-40図）。

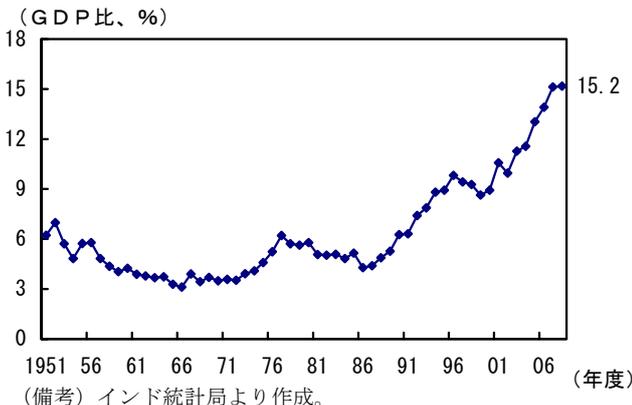
第2-4-1図 産業別にみた実質経済成長率



第2-4-25図 国内携帯・固定電話加入件数



第2-4-17図 輸出（通関ベース）の名目GDPに占める割合



第2-4-16表 インドの貿易構造

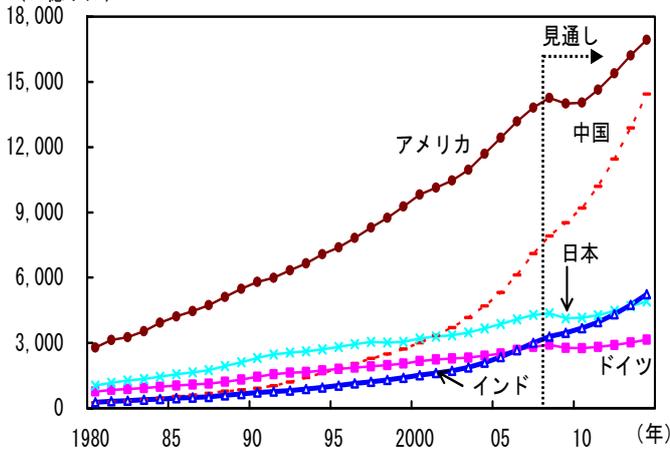
(1) 貿易相手国別シェア

2000年度			07年度		
順位	国名	シェア、%	順位	国名	シェア、%
1	アメリカ	19.1	1	アメリカ	13.0
2	香港	5.7	2	UAE	9.8
3	UAE	4.7	3	中国	6.8
4	英国	4.6	4	シンガポール	4.6
5	ドイツ	3.9	5	英国	4.2
6	日本	3.8	11	日本	2.4

2000年度			07年度		
順位	国名	シェア、%	順位	国名	シェア、%
1	ベルギー	7.3	1	中国	11.4
2	アメリカ	7.0	2	アメリカ	8.8
3	ナイジェリア	5.8	3	サウジアラビア	8.1
4	英国	5.3	4	UAE	5.6
5	スイス	5.1	5	イラン	4.6
6	日本	5.0	13	日本	2.7

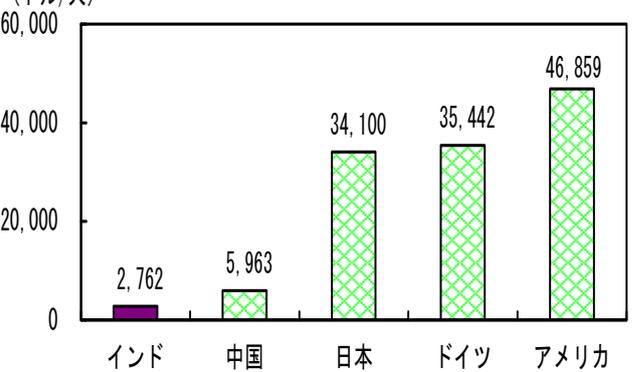
第2-4-32図 購買力平価でみた各国のGDP

(1) 上位5か国(08年時点)の推移

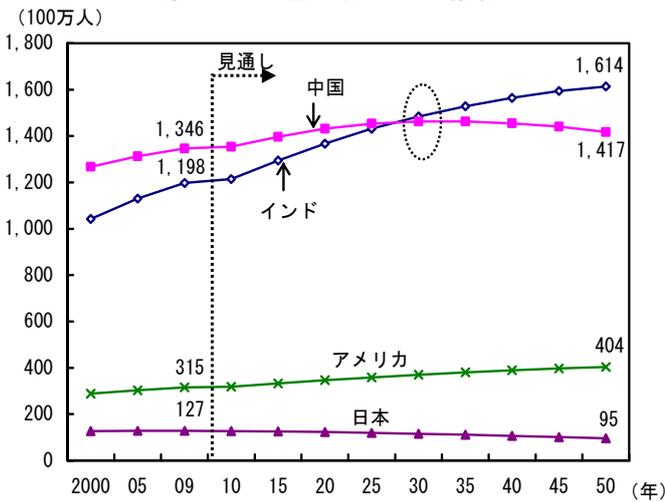


(備考) IMF “World Economic Outlook Database, April 2009” より作成。

(2) 一人当たりGDPの比較(08年時点)

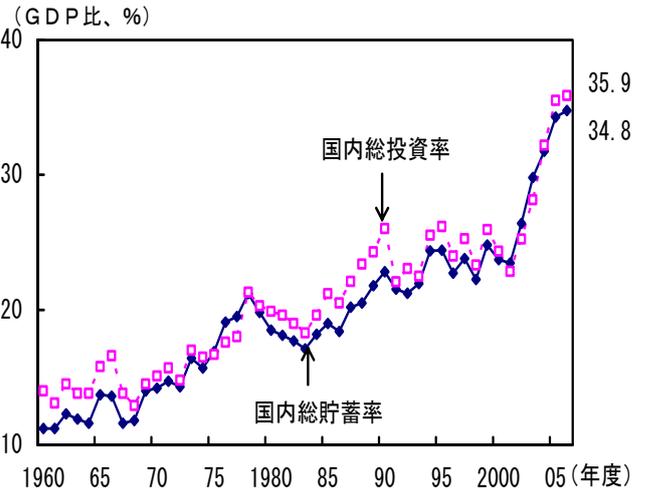


第2-4-33図 総人口の推移



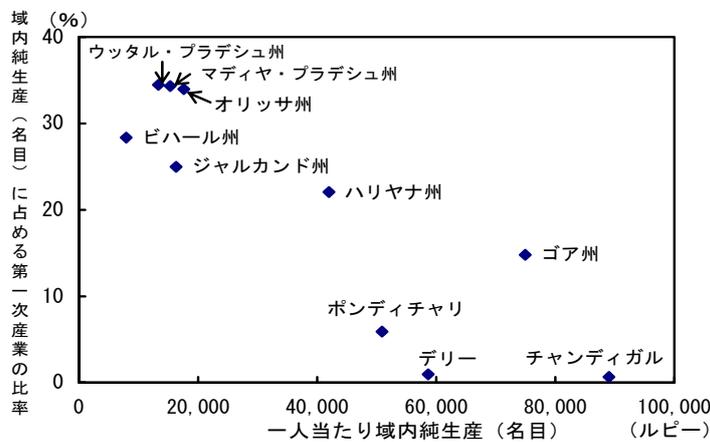
(備考) 1. 国連 “World Population Prospects: The 2008 Revision” より作成。
日本の値は国立社会保障・人口問題研究所より作成。
2. 中位推計の値を用いた。

第2-4-35図 国内総貯蓄率・総投資率の推移



(備考) インド財務省 “Economic Survey 2007-2008” より作成。

第2-4-40図 各地域の一人当たり域内純生産と第一次産業比率



(備考) 1. インド中央統計局より作成。
2. 05年度の値。